

確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成
～本校児童に身につけさせたい力の定着に向けて（3年次）～

1 主題設定の理由

（1）今日的教育課題及び本校の教育目標から

新学習指導要領では、知識基盤社会を生き抜く「生きる力」をすべての児童生徒に身につけさせることが求められている。

学校現場に求められている教育として、激しく変化する社会の中で、子供たち自らが自分の将来に向かって意欲的に学ぶ力を身に付けることが挙げられている。

そうした社会情勢をふまえて本校でも「知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす」ことを学校教育目標に掲げ、「心豊かな子」「考え深い子」「たくましい子」「力を合わせる子」の育成をめざしている。

（2）これまでの研究経過から

平成27年度は、国語科「書く活動」に焦点を絞り、指導のあり方を研究することによって「書く力」を育てていき、確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子供の育成に迫りたいと考え、取り組んできた。

どの授業研究会でも、書くための意欲づけを図りながら、取材・構成・記述・推敲・交流などの指導事項を重点化して、発達段階に合わせながら工夫した学習に取り組んできた。その結果、書く意欲が増し、書くことに抵抗なく取り組む様子が見られた。また、目的意識・相手意識を持って書くようになり、伝えるために分かりやすく書くように意識している姿も見られた。

授業研究会を通して、学習の中で大切にしていかなければならない点として以下の7点が明確になった。

- ①書く意欲を高めるための場の設定をする。
- ②書きたいことを明確にして相手意識や目的意識を持たせる。
- ③学習の流れを視覚化して見通しを持たせる。
- ④成果の見える学習を取り入れて達成感を持たせる。
- ⑤スモールステップでの学習計画をする。
- ⑥取材から構成までの工夫をする。
- ⑦推敲や交流の場の指導・支援の工夫をする。

また、研究を支える日常の取組としては、各学年が児童に実態に合わせ活動を工夫してきた。児童の書く力は向上し指導方法の工夫もできてきたが、「書くこと」においては、書くことを苦手としている子や好きでない子も少なくなく、個人差が大きい。

どの児童も意欲を持って書く活動に臨み、各学年で身につけたい書く力を高めるためには、児童のたちの実態を見つめて書くことが好きでない原因を探り、楽しんで書くための手立てや発達

段階に合った書く力をつけていく指導を考えて書く活動の充実を図っていく必要がある。

そこで、今年度の研究主題は、昨年度に引き続いて『確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子ども育成』～本校児童に身につけさせたい力の定着へ向けて（3年次）～とした。昨年まで研究した発達段階に合わせた指導を大切にしながら、書く意欲、書く力を高めるための指導のあり方を研究していきたい。

（3）児童の実態から

生活面では、素直で明るく活動的な子供が多い。よくあいさつをし、楽しく生活できる。学習面では、決められた課題に対して真面目に取り組む児童が多い。その反面、深く考える姿勢や粘り強さには課題が見られる。（学校グランドデザインより）

☆昨年度各種の調査のまとめから見られる課題

○生活実態調査

- ・家庭学習の時間が短い。
- ・睡眠時間が少ない。（7時間未満）
- ・TV等の視聴時間は、学年が上がるにつれて長くなる傾向にある（3時間以上）。

○全国学力・学習状況調査、山梨県学力把握調査

国語科においての課題点

- ・漢字の読み書き・筆順
- ・主述の関係や修飾語の指し示す言葉を正しくとらえること
- ・事柄の順序を考えて話すこと
- ・話し合いの司会の役割や大事な点に注目して意見を聞くこと
- ・文の続き方に注意して、順序立てて書くこと
- ・書いた文章の間違いを正したり、相手や目的に応じてよりよい表現に書き直したりすること
- ・場面や人物の設定を正確に読み取ること
- ・目的に応じて文を読み中心となる語や文、必要な情報を捉えること

質問紙から見られる課題

- ・生活面：家庭での学習や読書の時間が短い。（TV等の視聴時間が長い。）
- ・国語科：作文への苦手意識や意見を発表するときのスキルに不安を持っている。
また、自分の考えを話したり、書いたりすることへの意識が低い。

これらの結果から、昨年度に続き、国語科「書くこと」を通して、授業改善を図り、児童の学力の向上を図っていくことに取組んでいくことしたい。

2 研究目標

国語科において、「書く力」を高める授業作りをするために、児童が意欲的に学習していく指導のあり方を明らかにする。

3 研究仮説

国語科において、本校児童に身につけさせたい力に対する有効性が期待できる手立てを発掘・開発あるいは改良し、それらを「書くこと」に関する指導課程に位置付け、授業を行うことで、児童の「書く力」は向上し、意欲的に学ぶようになるであろう。

4 研究内容

昨年の課題（各ブロックの成果と課題より）

- ・「書くこと」に継続的に取り組むことで、子供たちは書くことに慣れ、抵抗なく書けるようになってきた。ただ、書く力には個人差があり、限られた時間の中で個々に応じた指導を効果的に行うには、どうしたらよいかが難しかった。
- ・助詞の使い方、主述、句読点の使い方については定着しつつあるが、今後も継続的に取り組んでいきたい。
- ・「書くこと」の学習活動は指導に時間がかかることが壁となる。時数の確保が困難で、一部の単元でしかじっくりと取り組む時間をつくってあげられないこと
- ・資料の準備・選択などにおいても、十分な環境を整えてあげられるかどうか課題となる。
- ・本時の授業の中では、交流の場を設けることができなかった。自らの学びを仲間にも伝えていくという機会を、普段から授業の中で仕組んでいきたい。

① 「書く力」を育てるための国語科の授業の改善と実践

新学習指導要領解説国語編では、学習過程が明確に記されている。

「書くこと」の領域を構成する5段階の学習過程（文章を書くために必要な技能）

- ① 課題設定や取材（必要な事項を集めることができる技能）
- ② 構成（文章全体の構成の効果を考えることができる技能）
- ③ 記述（意見が伝わるように書くことができる技能・言葉や文、段落の続け方に注意してまとまりのある文章を書くための機能）
- ④ 推敲（表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができる機能）
- ⑤ 交流（表現の仕方に着目して助言しあうことができる技能） H27研究紀要より

ア「書く意欲」「書く力」を高めることとし、学習した知識や技能を生かし、わかりやすく書く能力を育てるための手立てを考える。

- ・「書くこと」の題材を検討して、授業実践を行う。
- ・子供の現状を捉えながら、課題を明らかにしたり手立てを具体化したりする。

イ指導の工夫

- ・今までの国語の授業における指導方法の改善を図る展開の工夫・発問の工夫など
- ・ワークシートの工夫・付箋の活用・メモ等の成果が見える学習を取り入れる。

ウ意欲が高まる単元を貫く言語活動の充実

②研究をささえる日常の取り組み（継続的なスキルの育成の工夫）

書く力の基盤となる語彙を増やすことや文法事項の定着のための手立ての日常的な取組の実践（家庭学習との関連）

「基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けること」に関わる部分であり、授業での効果的な指導方法（効果的な手立て）を生かすために日常的に行っていく学習活動。

〈例〉

- ・視写の活動・作品の発表の場の確保・スピーチや音読・日記や作文・漢字の書き取り
- ・学習感想・読書活動…など

○学習習慣・生活改善に関して家庭との連携を図りながら児童の学習習慣を確立する方法を考えていく。

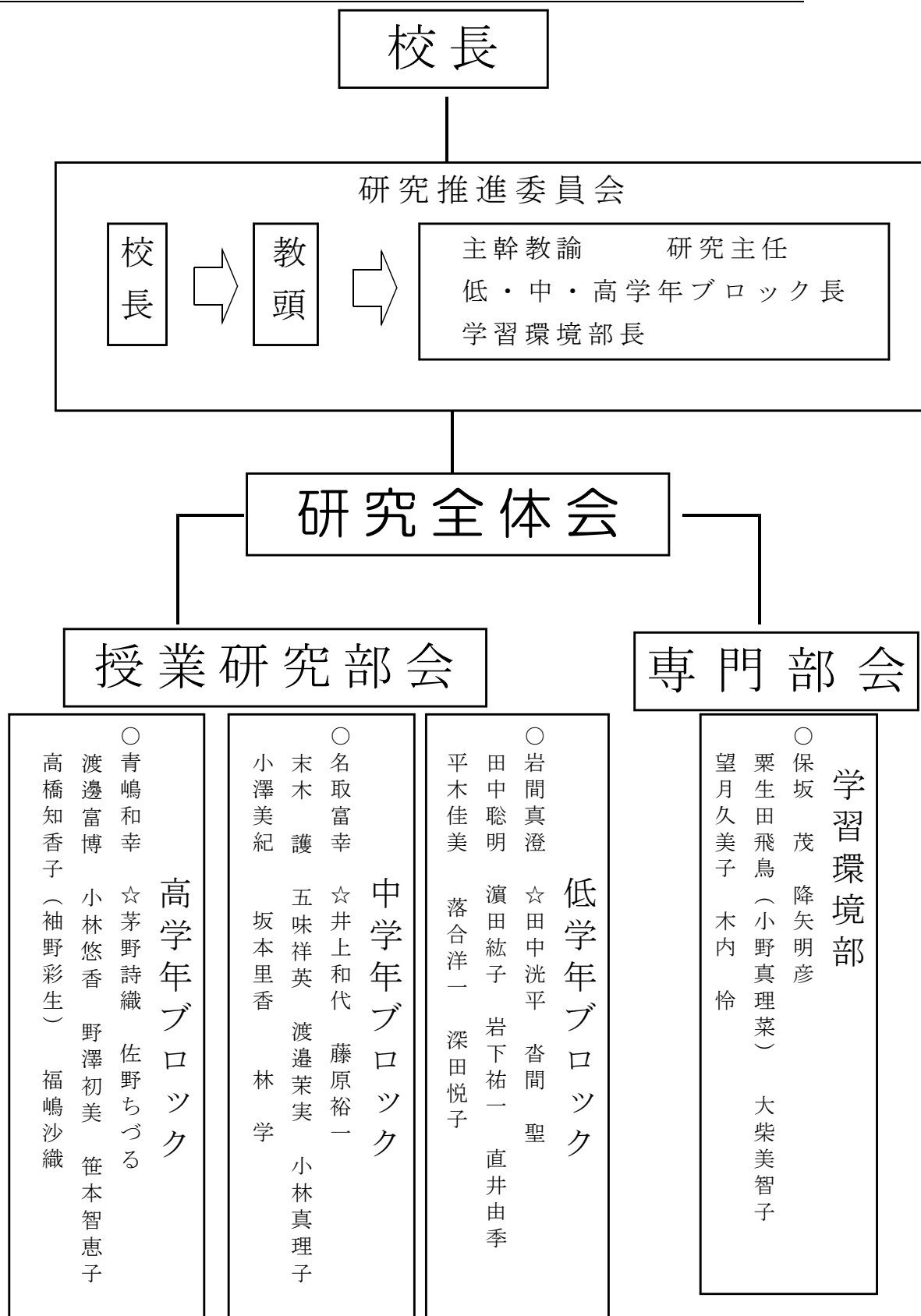
家庭学習の充実（環境改善）に向けての啓発活動の更なる工夫と実践。

- ・啓発リーフレットの工夫
- ・学習の記録（がんばりカード）の取組→1学期から取り組めるようにする。
- ・学級・学年懇談での保護者への啓発・学年だより等での取り組みの紹介

○調査研究

- ・外部からの実態調査を利用して、児童の実態を探っていく方向にする。
- ・国語の授業に関するアンケートについては、必要な項目を考え、ブロックで必要に応じて実施していく。
- ・各学年で、調査の結果や考察を利用し、授業改善を図る。

5. 研究組織



6 研究経過

研究会名	開催日	主な形態	主な研究・活動内容
第1回校内研究会	4 / 12	全体研	○昨年までの校内研究の概要と今年度の校内研究の方向性について
第2回校内研究会	5 / 20	全体研	○今年度の研究について ・研究の概要 (研究主題, 副主題, 研究計画, 研究組織等)
第3回校内研究会	6 / 13	全体研後 ブロック 毎WG	○甲府スタイルについての学習会 講師 甲府市学力向上専門員 市川修策先生 ○今年度の研究について ・研究の概要 (授業研に関わって・学習習慣作りについての方向性)・授業計画・啓発資料作成等
第4回校内研究会	7 / 22	全体研後 ブロック 毎WG	○「書くこと」についての学習会 講師 山梨県教育庁 義務教育 小林知子先生 ○ブロック毎WG毎の活動 ・研究授業について
第5回校内研究会	8 / 19	全体研後 ブロック	○ブロック毎WG毎の活動 ・指導案づくり 2学期の準備
第6回校内研究会	9 / 5	研究授業	○研究授業 1年国語「こんなことをしたよ」 授業者 1年 田中 洸平
第7回校内研究会	10 / 12	研究授業	○研究授業 5年国語「報告する文章を書こう」 授業者 5年 茅野 詩織 講師 甲府市学力向上専門員 堀之内睦男先生
第8回校内研究会	11 / 7	研究授業	○研究授業 3年国語「すがたを変える大豆」 授業者 3年 井上 和代 講師 甲府市学力向上専門員 市川修策先生
第9回校内研究会	11 / 28	全体研	○ブロック研究のまとめ ○今年度の反省
第10回 校内研究会	2 / 13	全体研	○研究のまとめと来年度の方向性について